



医療用レベルの
マスク性能を、
日常へ。

第66期 中間株主通信

(2020年4月1日～2020年9月30日)

株主メモ

上場市場	東京証券取引所市場第一部
上場日	2014年10月8日(東京証券取引所市場第二部)
証券コード	6240
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
基準日	定時株主総会については3月31日
配当の基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel: 0120-288-324 (通話料無料) (受付時間: 土日祝祭日等を除く 平日午前9時～午後5時) 株式に関するお手続き(みずほ信託銀行) https://www.mizuho-tb.co.jp/corporate/daikou/index.html
株式の売買単位	100株
公告掲載URL	公告は電子公告により行います。 http://www.yamashin-filter.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。

株式等に関するマイナンバーお届出のご案内

2016年1月から、社会保障、税、災害対策の行政手続きにおいてマイナンバーの利用が開始されています。

株式等の税務関係の手続きでもマイナンバーが必要となりますので、株主様のマイナンバーについては、お取引の証券会社等へお届出ください。

〈上場株式等をお持ちの株主様〉

証券会社等にて株式等を管理・購入・取引されている場合には、証券会社等へお届出いただく必要がございます。お手続き方法など詳細につきましては、証券会社等へお問い合わせください。

*不動産投資信託(REIT)、ETF、JDR等の国内証券取引所にて取引される株式以外の金融商品も含まれます。

〈未上場株式等をお持ちの株主様〉

ご所有の株式の発行会社または株主名簿管理人にお届出いただく必要がございます。お手続きの詳細につきましては、株主名簿管理人にお問い合わせください。

マイナンバーを
記載する主な支払調書

* 配当金等に関する支払調書
* 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバー 制度について

マイナンバー制度^(注)とは、国民一人ひとりに配布された番号によって、複数の行政機関に存在する個人の情報を正確に連携させるための社会基盤です。

(注)行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律(平成25年5月31日法律第27号)

マイナンバーの 取扱いについて

マイナンバーの取扱いは、法律により厳格な保護措置が設けられており、利用範囲は社会保障・税・災害対策の行政手続きに限定されています。

マイナンバーの 提供について

2016年1月以降、新たに証券会社とお取引をされる株主さまは、マイナンバーを証券会社に提供する必要があります。2015年12月以前より証券会社とお取引をされている株主さまも、2018年末までにはマイナンバーの提供が必要です。

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主さま…お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とお取引がない株主さま…下記株主名簿管理人のフリーダイヤルまでお問い合わせください。

みずほ信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-84-0178

ヤマシンプィルタ株式会社

証券コード: 6240

IR伝言板

第三者割当による行使価額修正条項付 第5回新株予約権「サステナブルFITs」 発行のお知らせ

当社グループは、「仕濾過事」(ろかじにつかふる)フィルタビジネスを通じて社会に貢献するという経営理念のもと、「環境」、「空気」、「健康」をテーマにESG等の社会的課題解決に取り組み、コーポレートサステナビリティの強化に努めております。

また、経営戦略上の中長期的な目標として、「建設機械フィルタの専門メーカーから総合フィルタメーカーへの飛躍」を掲げ、中期的持続的成長を実現するために、①事業ポートフォリオの拡大、②収益性の改善、③人材の育成強化、④ガバナンスの更なる充実に重点的に取り組んでおります。

これらの成長戦略の推進にあたり、当社は独自に開発した素材である合成高分子系ナノファイバー「YAMASHIN Nano Filter™」の量産化技術を活かし、同素材を当社のコアビジネスである建機用フィルタ事業のみならず、エアフィルタ事業、アパレル事業、ヘルスケア事業等のあらゆる事業において活用することを目指しております。

今回のエクイティ・ファイナンスを行うことにより、生産体制の整備に必要な設備投資資金や、「YAMASHIN Nano Filter™」の事業用途拡大に向けた研究開発資金、及び当社グループの事業領域における海外進出や新規顧客の開拓等を目的としたM&A及び資本・業務提携等の戦略的投資を行うための資金確保と財務基盤を強化し、当社の更なる発展と社会貢献を果たすことを目的としております。

また、今回のファイナンスにより調達する資金使途に関しては、外部レビューを提供する株式会社日本総合研究所より、環境及び社会側面でのインパクトを客観的に分析して頂き、セカンドパーティオピニオンを取得しております。改めて当社の事業及び取り組みに関して、投資家の皆様からのご理解を賜りたいと考えております。





代表取締役社長執行役員 **山崎 敦彦**

仕渡過事

ろかじにつかふる

株主の皆様へ

この度の新型コロナウイルス感染症に罹患された皆様および感染拡大によって困難な生活環境におられる皆様に、心からお見舞い申し上げます。

ここに、第66期中間株主通信（2020年4月1日から2020年9月30日まで）をお届けいたします。

当社は建設機械フィルタの専門メーカーとして70年に及び実績をもち、建設機械メーカーとともに性能・品質の向上にまい進してまいりました。

昨今におきましては、合成高分子系ナノファイバー量産化技術を活用した新製品開発を継続し、新規事業領域への参入を積極的に進めております。

引き続き、株主の皆様のご期待に応える努力を続けてまいります。より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年12月

Q1 2020年第2四半期(当四半期)の業績と 取り組みについてお聞かせください。

A1 当社グループの主力事業である建機用フィルタ事業における建設機械市場では、新型コロナウイルス感染症の影響により停滞していた主要得意先各社の生産活動は回復傾向にあるものの、日本、米国、欧州、アジア市場において足元の需要は減少しました。一方、中国では当社の主要得意先各社の市場占有率が大幅に縮小し、中国系建機メーカーの市場占有率拡大が継続するなか、経済活動の再開が本格化し、産業補助金拡大による政府主導の投資促進策や消費刺激策の効果等もあり、油圧ショベルの新車販売台数は対前年比で大幅な増加を記録するなど、需要は大幅に増加しました。

このような環境のもと、当社グループは既存ビジネスである建機用フィルタ事業では、油圧ショベルの作動油回路用リターンフィルタ製品を中心に、新素材やIoT技術を活かした製品ラインナップの充実を図り、純正部品の採用率向上に努めました。さらには、当社が独自に開発した合成高分子系ナノファイバーを使用したロングライフのフィルタ製品やタンク内の気泡を除去するエアレーション技術、フィルタの汚染度や交換頻度を感知するセンサ技術を搭載したフィルタ製品の主要得意先への積極的な提案を行っております。また、エアフィルタ事業では、アフターコロナの世界を見据え、エアフィルタを取り巻く市場環境は今後大きく成長するものと捉えており、合成高分子系ナノファイバー量産化技術を活用した新製品の開発を継続し、新規事業領域への参入を積極的に進めております。具体的には、低圧損で高捕集率のナノファイバー製エアフィルタを製品化し、オフィスビルや工場、鉄道車両、家電等への採用に向けた取り組みが進展しております。これらの新製品の普及により、使用電力の低減によるCO₂削減に加え、オフィスビルをはじめ多くの人々が働く環境にきれいな空気を提供することにより、健康被害リスクの低減、地球環境の保全に貢献できると考えております。さらに、ヘルスケア事業では、新型コロナウイルス感染症感染者数の継続的な増加に伴う恒常的なマスク需要増大を背景として国内マスクの市場規模は大幅に拡大しており、外国製マスクと比較して性能面や安全性・品質で勝る国産マスクの需要は引き続き増加が見込まれます。このような市場環境のもと、当社グループは合成高分子系ナノファイバーを活用した「ヤマシン・フィルタマスク」と取替用インナーシート「ヤマシン・フィルタシート」を2020年5月からは当社ECサイトにて、9月からは主要ドラッグストア等を通じ販売を開始しました。フィルタ専門メーカーである当社のマスク製品は市場に好評をもって受け入れられ、当社グループの業績へ与える重要性が高まった結果、当第2四半期よりヘルスケア事業としてセグメント情報を開示するに至りました。また、医療用レベルの性能を実現した一般消費者向けマスク「ヤマシン・フィルタマスク Zexeed(ゼクシード)」を開発、11月より全国販売を開始しました。これに先立ち前期より国内大手アパレルメーカー数社に対し秋冬物衣料の中綿材として「YAMASHIN Nano Filter™」の量産供給を継続しておりますように、当社グループは独自開発の合成高分子系ナノファイバーの量産化技術を基に、建機用油圧フィルタ並びにエアフィルタの2つの事業に加えて新規事業の確立を図ることで、

総合フィルタメーカーとしての事業ポートフォリオを構築してまいります。これにより中期的持続的な事業成長とESGへの積極的な取り組みを両立させ、企業価値の向上を図るとともに、持続可能な経済・社会生活の実現に向けた企業貢献を積極的に行ってまいります。

以上のように、当四半期中、当社グループの各事業においてアフターコロナのビジネスに向けた取り組みが進展しました。また、依然として経済の先行きに不透明さが残るなかでも、当社の主要得意先である各建機メーカーの生産活動は徐々に再開され、結果として当社の業績も回復傾向にあります。しかしながら、一時的に発生した納期対応に係る航空運賃等の発生や事業再編に要したデューデリジェンス費用並びに新規マスク事業に伴うPR費用の発生等により低調に推移しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は65億63百万円（前年同四半期比12.9%増）となり、営業損失は50百万円（前年同四半期は3億88百万円の営業利益）、経常損失は60百万円（前年同四半期は2億86百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億52百万円（前年同四半期は1億87百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

Q2 2021年3月期(通期)業績予想と 取り組みについてお聞かせください。

A2 ヘルスケア事業では、新型コロナウイルス感染症感染者数の継続的な増加に伴う恒常的なマスク需要増大を背景として国内マスクの市場規模は大幅に拡大しており、「ヤマシン・フィルタマスク」「ヤマシン・フィルタシート」に続く「ヤマシン・フィルタマスク Zexeed」の大手コンビニエンスストア等への供給本格化に伴い、業績予想の修正を行いました。また、建機用フィルタ事業でも、世界経済全体や為替動向には依然として先行き不透明さが残るなか、停滞していた主要得意先各社の生産活動は回復傾向にあることから業績予想を修正しました。

これにより通期の業績は、売上高160億円（前期比26.2%増）、営業利益13億円（同67.2%増）、経常利益12億80百万円（同112.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益13億50百万円（同122.0%増）を予想しております。

Q3 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A3 当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置付けたくうえで、財務体質の強化と今後の事業展開に必要な内部留保の充実を勘案し、安定した配当政策を実施することを基本方針としております。上記の基本方針ならびに当社を取り巻く経営環境等を総合的に勘案し、中間配当については1株につき3円とすることとし、期末配当予想については1株につき3円とします。これにより、年間の配当予想は6円となる予定です。株主の皆様には今後とも末永いご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度末 (2020年3月31日)	当第2四半期末 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産	13,982	11,930
固定資産	7,607	9,876
有形固定資産	6,636	8,833
無形固定資産	367	331
投資その他の資産	603	711
資産合計	21,590	21,806

(単位：百万円)

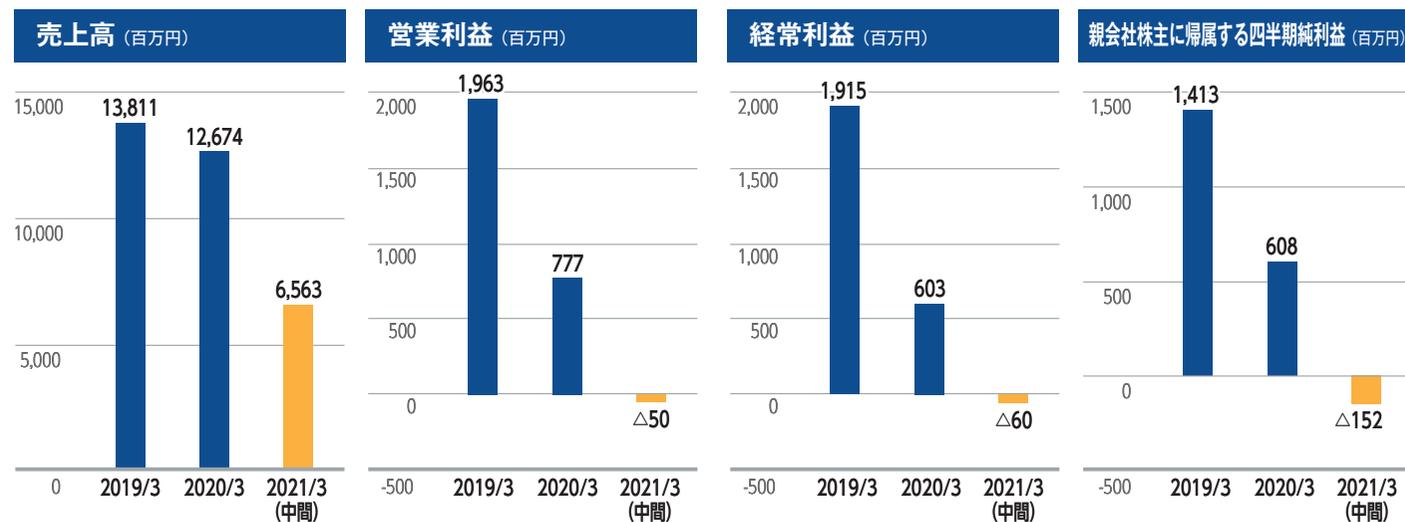
科目	前連結会計年度末 (2020年3月31日)	当第2四半期末 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債	2,810	3,303
固定負債	578	586
負債合計	3,388	3,889
純資産の部		
株主資本	18,221	17,903
その他の包括利益累計額	△19	△18
新株予約権	-	31
純資産合計	18,201	17,917
負債純資産合計	21,590	21,806

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2019年9月30日)	当第2四半期 (2020年9月30日)
売上高	5,811	6,563
売上原価	3,175	3,870
売上総利益	2,636	2,692
販売費及び一般管理費	2,248	2,743
営業利益又は営業損失(△)	388	△50
営業外収益	7	13
営業外費用	108	24
経常利益又は経常損失(△)	286	△60
特別利益	16	1
特別損失	0	124
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	303	△184
法人税等	116	△31
四半期純利益	187	△152
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	187	△152

連結財務ハイライト



News & Topics

「フィルタ性能」「密閉性」「息のしやすさ」を追求した次世代マスク

「ヤマシン・フィルタマスク Zexeed(ゼクシード)」発売

当社は永年にわたるフィルタの研究開発のなかで培った業界最高水準のフィルタ技術をヘルスケア事業に応用し、その第一弾として2020年5月に「ヤマシン・フィルタマスク」と「ヤマシン・フィルタシート」を発売し、大変好評をいただいております。

この度新たに発売を開始した「ヤマシン・フィルタマスク Zexeed(ゼクシード)」は、マスクに必要とされる3大要素である「フィルタ性能(ろ過性能)」、「密閉性(漏れ率)」「息のしやすさ(通気性)」を医療用防塵マスクと同レベルまで高めた、当社の一般消費者向けフラッグシップマスクであり、2020年10月より先行販売を開始し、同年11月より全国販売を開始致しました。

なお、商品の発売に先立ち当社が行った調査では日常的に利用する場所・施設等に不安を感じている人や逆に外出できずストレスを感じている人の割合が高いこともわかりました。当社は、人々の不安が少しでも軽減され、持続可能な社会・経済活動が営まれるよう、「環境」「空気」「健康」をテーマに企業としての社会的責任を果たしてまいります。



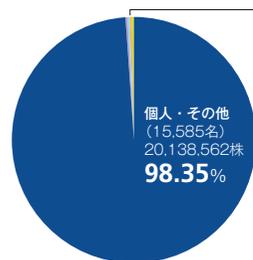
会社概要 / 株式の状況

会社概要 (2020年9月30日現在)

商号	ヤマシンフィルタ株式会社(旧 山信工業株式会社) (英文名称 YAMASHIN-FILTER CORP.)
所在地	〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8 日石横浜ビル16階
設立	1956年4月
事業内容	建設機械用フィルタ・産業用フィルタ・プロセス用フィルタ及び 関連部品の製造・販売、ナノファイバーの開発・製造・販売
資本金	5,455百万円
代表者名	山崎 敦彦
従業員数	単体：176名 連結：729名
認定・取得	ISO9001：2015 (JIS Q 9001：2015) 認証取得 ISO14001：2015 (JIS Q 14001：2015) 認証取得

株式の状況 (2020年9月30日現在)

発行可能株式総数 203,580,000株
発行済株式の総数 69,229,472株
株主数 15,847名



証券会社 (23名) 656,444株	0.14%
外国法人等 (132名) 9,729,241株	0.83%
金融機関 (25名) 13,709,600株	0.16%
その他国内法人 (81名) 24,995,470株	0.51%
自己名義株式 (1名) 155株	0.01%

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
株式会社やまびこホールディングス	24,055	34.7
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,671	6.7
山崎 裕明	3,822	5.5
山崎 敬明	3,814	5.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,937	4.2
TAIYO FUND, L.P.	2,104	3.0
TAIYO HANEI FUND, L.P.	1,353	1.9
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	1,061	1.5
山崎敦彦	1,020	1.4
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227	914	1.3

特集

仕濾過事 ヤマシンフィルタの歩み

第9回「紙に替わる新素材グラスファイバーを濾材に」



創業者 山崎正彦

佐賀工場竣工に至るまでの紆余曲折のなかで、落ち着かぬ日々を過ごしていた山崎正彦は何度も自分の経営方針を検討し、考え直しました。

「アメリカにならってただ量産するだけではダメだ。いくら大量消費時代と言っても、もはや終戦直後のように売れるものさえあれば買手がつく時代ではない。良質の製品を提供してこそ安定した顧客がつく。中小企業である山信工業が生き残るためには、量もさることながら、当社にしか作れないフィルタを製造提供していくしかない。山崎の脳裏に社是「仕濾過事」がよみがえり、いつしか量産を追い求めていたことに気づき猛省しました。

山崎は考えました。「自分の本領は大企業路線に追従することではないか。量から質への転換、優れた新製品の開発を行っていかないと中小企業は潰される。この二十年間、濾紙を使ったフィルタエレメントの精度を上げることばかり考えてきたが、そろそろ紙の限界はきている。新しい素材の開発に取り組みないといけない。幸い、佐賀工場には新しい取り組みを行えるだけのスペースがある」

山崎は新しい濾材を探し、羊毛・羽毛から綿毛まで様々な素材を試してみましたが、白羽の矢を立てたのは、自宅にある水槽の浄化装置に使われているグラスファイバーでした。グラスファイバーを濾材とするには、新しい抄紙機が必要になります。抄紙機の開発は佐賀工場に

任せたものの、グラスファイバーを使った新フィルタの開発のため、山崎は早速本社の実験室にこもり試作と実験に取り組みはじめました。そして、重いゴミが流速ゼロもしくはゼロに近い状態で下に沈下する特性を利用し、濾紙を使わない新型フィルタを完成させました。製品名は万有引力を発見したアイザック・ニュートンにちなみ、「ニュートニック」と名付けられました。そして、営業活動の甲斐あって翌昭和五十二年にはコンクリートミキサー車への搭載が決定しました。

同昭和五十二年には抄紙機も完成、山崎はグラスファイバーを用い、従来の濾紙より桁違いに小さいミクロン単位の不純物も濾過できる「SM濾材」(SMはスーパーミクロンの意味)を完成させました。そして、この「SM濾材」により「SM一号」から「SM四号」まで4つの製品が生まれました。

「二号」「四号」は従来手がけてきた建機油圧フィルタとは全く異なった種類のフィルタでしたが、山崎が濾過という業種に足を踏み入れたきっかけが、清酒の濾過であったように、濾過装置としてフィルタを使用する業種は無数にあるとも言えます。

こうして広い市場を意識して作られた4つの新製品でしたが、山信工業の営業部門は質量ともに独自の営業を展開し、広く売り込むというレベルには、残念ながら達していませんでした。そのため、その高い性能に目をつけ大量購入したK社などもありましたが、これら製品が大きく世の中に広まるのはもう少しのちのこととなりました。

*

*

さて、山崎は佐賀工場へ督励と応援を兼ねて何度も足を運びましたが、それは新しい製品を開発するためでもありました。彼はそのためにコアベンディングマシンを導入しました。

従来、山信工業で使う内筒や外筒はパンチングした鉄板を溶接して製造していました。しかし、鉄板を重ねて溶接した部分はどうしてもオイルの通りが悪くなることから、溶接部分は濾過機能が大きく落ち濾過にムラが起きてしまいます。コアベンディングマシンにより曲げ加工の精度が向上したことで、真円の筒を作ることが可能になり、濾過ムラのほとんどないエレメント「H1657」が誕生しました。

同時期に動いていたソ連での大プロジェクトの陰になりましたが、山信工業ならではの技術とアイデアが盛り込まれたエレメントとして、「H1657」が記念すべき製品となったことは間違いありません。

このように、山信工業は自社ブランド確立へ向けて一歩ずつ歩みを進めていきました。(続く)

